【6】

氏　名（本籍）	山　﨑　聖　子（山 口 県）（やま さき しょう こ）
学 位 の 種 類	博　　士（ヒューマン・ケア科学）
学 位 記 番 号	博　甲　第　4820　号
学位授与年月日	平成 20 年 5 月 31 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審 査 研 究 科	人間総合科学研究科
学 位 論 文 題 目	**高齢者へのアートセラピーの適用に関する実践的研究**

主　査	筑波大学教授	博士（ヒューマン・ケア科学）	松　田　ひとみ
副　査	筑波大学教授	博士（医学）	本　田　　靖
副　査	筑波大学准教授	医学博士	柳　　久　子
副　査	筑波大学准教授	医学博士	水　上　勝　義

論 文 の 内 容 の 要 旨

（目的）

本研究は，高齢者に対するアートセラピーをシステマティックレビューにより概観するとともに，その適用に関して，実践的に明らかにすることを目的として，文献的研究と介入研究を行った。

（対象と方法）

1.　アートセラピーの変遷や期待される効果，技法等を分類し，高齢者へのアートセラピーの特徴についての文献検討を行った。

2.　茨城県の M 介護老人保健施設に通所する要介護高齢者 23 名に対し，デイケアに関する質問紙調査とアートセラピー介入調査を行った。介入プログラムは，①下絵のある描画，②コラージュ，③自由画の 3 つであり，コントロール群を設定し，介入前後での Face Scale と POMS（Profile of Mood States）得点の変化の比較を行った。

（結果）

1.　合計 79 論文が抽出され対象疾病としては，国内外ともに認知症，うつ病またはうつ症状が多かった。高齢者に対するアートセラピーは，認知症やうつ症状の軽減といった疾病の治療が最も多かった。疾病の治療促進や疾病予防の働きかけとなる，社会的交流の機会増加やこれまでの人生の回想，QOL の向上，自己価値感の向上，悲嘆の受容，ストレスの解消を目的としていた。

2.　2 種類のアートセラピー介入において，POMS，Face Scale で測定した気分変化に有意な差が認められた。

（考察・結論）

1.　海外に比べて，日本におけるアートセラピーの介入効果の前後の比較検討を行っている論文の割合は少なく，今後の課題が見出された。

2.　要介護高齢者がアートセラピーに参加することには一定の気分改善効果があると思われた。

3.　MSQ が 3 点以上の認知症のものを除き，また POMS において「抑うつ - 落ち込み」得点が男性 4 点以上，

女性 5 点以上の対象者が 2 名（いずれもアートセラピー群）と少なく，アートセラピーへの参加は，うつや認知症でない要介護高齢者の精神性の向上にも有効である。

審 査 の 結 果 の 要 旨

高齢者を対象としたアートセラピーの効果について，文献検討および描画・コラージュと自由画などを用いて介入し, 各方法の比較を行った研究である。介入の効果についてはFace scale と POMS により評価を行ったが，自由画に対する効果の低さが見出された。高齢者にとっては，アートへの取組みの容易さが喜びにつながるとも推察され，興味深いデータを提示することができた。今後は，定量的な研究として対象者数を増やすこと。また，介入効果の判定法については生理学的な評価を加えるなど，客観性のある指標を提示することが課題となった。

よって，著者は博士（ヒューマン・ケア科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。